

開発部門じゃないけどAgileやってみたよ
～世界を変えるヒトになろう～

2017年4月13日 Agile Japan 2017

パナソニック(株) 小林 敬(Bob)

(ペーパー)公認スクラムマスター

■おことわり

✓開発手法・技法の話ではないです

→今のうちに退出してノートPCで仕事した方がいいよ

✓Agileやってみた、だと? Do AgileじゃなくてBe Agileだろ、
という声は封印！ その通りですけどね

✓今日の発表内容はソフト開発の視点では超のつく低レベル。開発現場はこんなことないので安心してパナソニックのサービス・製品をご愛顧ください。 ←ここ重要

テーマは

「芯」

Agile

■自己紹介

◆Twitter @bobkob3

◆仕事上の名前: Bob Kobayashi

◆自称80歳

◆パナソニックの社内分社Connected Solutions
Companyで製品セキュリティ推進の仕事しています

- ◆2010年社内分社のSPIIに。Agileと出会ったのは翌年。
- ◆いままでAgileだけでなく講演らしきものをしたことがありません。鋭意緊張中。
- ◆製品セキュリティに仕事が変わった2015年の驚きが今回の発表事例のきっかけです。

製品セキュリティに対する
パナソニックの取り組み

リスクの最小化とインシデント対応

パナソニックでは、ビジネスパートナー様とより良い社会を創造していくことを事業ビジョンに掲げ、BtoB ソリューション事業を進めております。

BtoB ソリューション事業において、製品セキュリティはお客様、ビジネスパートナー様の関心が高い事項であり、パナソニックでも積極的に取り組んできました。

デジタル化、ネットワーク化といった技術の進化は、より良い社会の創造に貢献する一方で、セキュリティという課題を発生しています。

この課題を解決するために、パナソニックはビジネスパートナー様と協働して取り組みを進めてまいります。

製品セキュリティをめぐる状況は日々変化しており、状況の変化に対応するために、製品を出荷した後も取り組みを継続することが必要です。

パナソニックは、開発時のみならず、お客様が製品を廃棄されるまでの製品ライフサイクル全般に対して製品セキュリティの取り組みを実施する体制を全社をあげて構築しております。

また、製品セキュリティを専門に担当する Panasonic PSIRT が、国際的なセキュリティ団体と連携して最新の情報を入手し、製品セキュリティの全社的な取り組みを進めております。

本書では、パナソニックグループで共通的に実施している製品セキュリティの取り組みをご紹介します。本書に書かれている以外にも、取り扱う製品の特性に応じた取り組みをカンパニー、事業場が進めております。

当社は引き続き「お客様第一」の視点で、製品セキュリティの取り組みを進めてまいります。

パナソニック株式会社
代表取締役専務

宮部 義幸

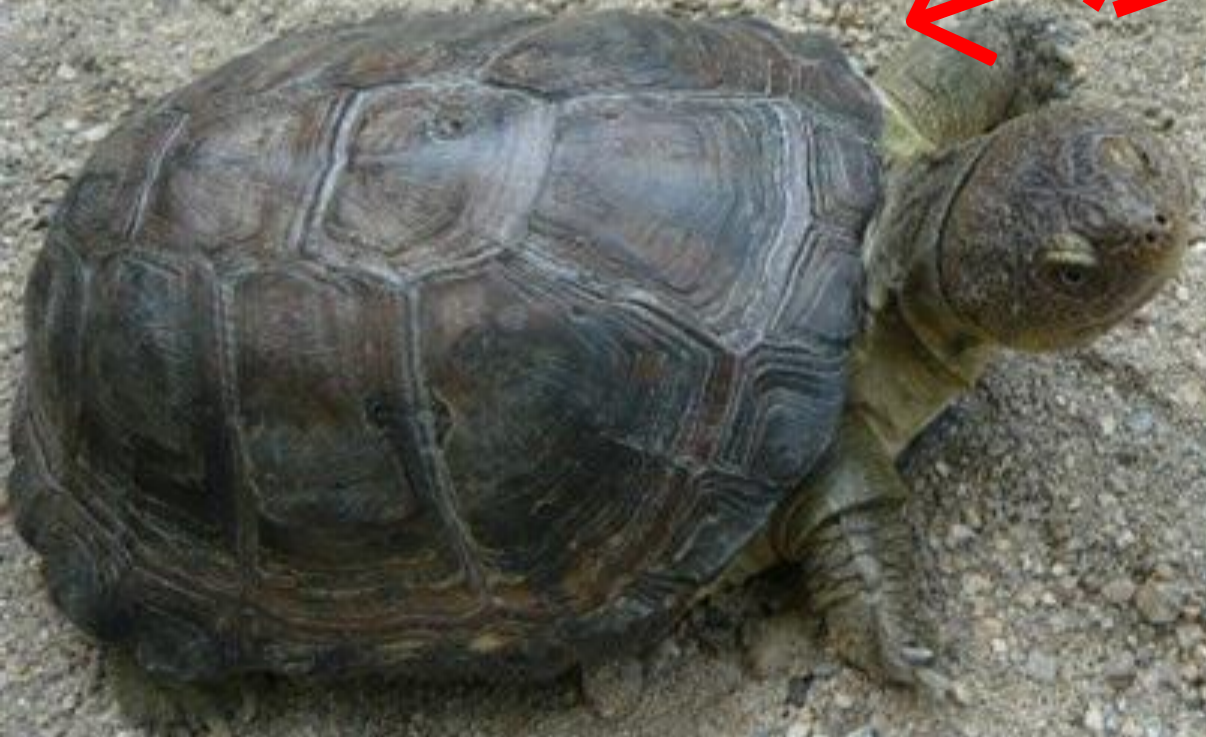


セキュリティの概念を変える
次世代のネットワークカメラ

SECURITY SYSTEMS

<http://news.mynavi.jp/photo/articles/2017/01/07/ces2017-panasonic/images/0711.jpg>
http://www.nikkei.com/article/DGXLASDZ04HLS_U7A100C1000000/
<http://sol.panasonic.biz/security/>
http://panasonic.jp/pc/appli/xz_special/

← 左肩



■何を伝えたいか

自分の能力・知見・経験で世界をよくしよう。

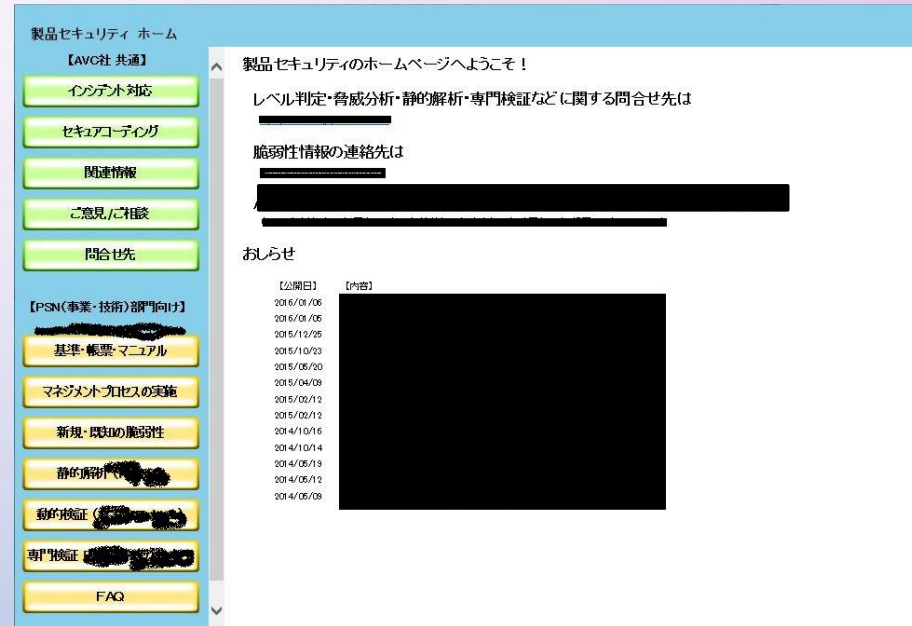
それに必要な武器をあなたはすでに持っている。

■ここから本題(仕事が変わって驚いたこと)

社内向けHPがある。

メッセージを各事業部に伝える大事なツールであるにもかかわらず、組織的な管理ではなく、各担当が個人管理。

見た目も更新方法も20世紀風のおもむき。



見た目は費用対効果を考えて優先度低いと判断

■更新方法・管理方法

◆HTML editorかtext editor、個人の好み

◆変更履歴(リリースノート)の内部管理はエクセルで

◆レビューもなんとなく

◆htmlやデータファイル(主にpdf)の版数管理はカオス

✓勝手にフォルダーを作る(old, backup, <個人名>, <date>...)

✓古いファイルがそのまま残っている、renameしてそのまま放置

(これらがソースファイルサーバーとテストWebサーバーと本番Webサーバーそれぞればらばらに発生)

■HPの内容更新時期

…不定期…

イベントドリブンといえは聞こえがいいが積極的な改善のプロセスがなかった。重要なツールなのに放置されていた。

工数をかけて一度(いいもの?を)作成したらあとは手間をかけていない。よく言って、静的美を重視。

■取り組み(ソフトっぽい)

◆バージョン管理・構成管理

- ✓SVN導入(はい、今更ながらのsubversionです)
- ✓迷子ファイル(リンク切れ)検出ツール導入
- ✓ソース・テスト環境・本番環境の同一性確認
- ✓Editor統一は見送り

■取り組み(ソフトっぽい)

◆定期更新すべき項目をリストアップ、頻度を決定

✓体制表

✓静的解析ツールを使った解析結果公開

■ 取り組み (Agileっぽい)

◆ product backlog作成

- ✓ 当時のHPで気になるところをリストアップ
- ✓ やらないことを決める

◆ timebox導入

- ✓ 期間は一週間
- ✓ どの曜日に何をするか、まで決定
- ✓ レビューの義務化、担当の明確化。

■取り組み(Agileっぽい)

◆朝会・KPT導入(メールで済ませる雰囲気を変えた
い)

✓口頭コミュニケーション重視

✓月曜朝会～金曜KPT

取り組み中の苦労話は割愛。

理由は、、、

出張中の出来事だけご紹介。

■結果

◆狙い通りに変化したもの

✓構成管理ツール定着

✓timeboxの破綻は15ヶ月で1回だけ

✓HPをどんどん変える風土。静的美→動的美(ほんとか?)

✓定期更新定着

✓プロダクトバックログ消化(バーンダウンチャート作っていないけど)

■結果

◆狙い通りの変化が得られなかったもの

✓ツール利用忘れ発生(ルールを作っても人間が忘れてたらそれまで)

✓朝会とKPTの減少(口頭重視の風土改革に至らなかったか、成熟してPがなくなってきたからなのか)

✓もともと朝会で伝えることは少なかった(狙いそのものが空振り。Do agileだったよね)

■事例報告のKPT

前ページ結果KPを踏まえてT(TryじゃなくTried)を。

セッションの採用通知受領時、2月にHPを大変更することを予定していた。口頭コミュニケーションを増やす機会にしてみた。

具体的には、要修正項目の抜き出しと修正案検討をあえて口頭ベースで全員で。いつもの1割増で意見が。(個人の感想です)

■まとめ

- ◆この発表内容はたいしたことない
- ◆どこで・だれが実施したか、が大事
- ◆ソフト開発から離れるかもしれないよね
 - ✓転職、マネージャー(へ)、ボランティア活動(も)
- ◆自分の能力・知見・経験で世界をよくしよう
- ◆それに必要な武器をあなたはすでに持っている

持っている武器

骨格と筋肉の知識があれば
コリをほぐすことができる、と
知っている

左肩のほぐし方を知っている

広げられる範囲

右肩も腰もほぐすことができ
る。他人にも提供できる。

自分の右肩をほぐすことが
できる

上に行くことだけが大事なんじゃない

扉を開けて右に行くことが大事

FEARLESS CHANGE



～ 障子を開けてみよ。
外は広いぞ（豊田佐吉氏）～

最後までお付き合い頂き
ありがとうございました

あ、新しい「Agileのright wing」じゃないですから 😊